

ベトナム Vietnam Market Report

消費・流通・外食動向レポート

10月号
(2026年)

【編集・発行：株式会社ミヤマプロジェクト】気になる記事がございましたら、何なりとお問い合わせください。
尚、本レポートは「株式会社ミヤマプロジェクト」に帰属いたします。無断コピー、転載転送は固くお断りいたします。

モダン・トレード（流通・スーパー・コンビニ）

1.1～8月の累計小売り・サービス売上高が前年比13.3%増と好調を維持

ベトナム統計局（GSO）が9月に発表した最新統計によると、2026年1～8月累計の小売り・消費者サービス売上高は前年同期比13.3%増の5,235.5兆VND（約32兆円）に達しました。物価上昇の影響を除いた実質成長率も7.6%と高く、新学期シーズンや都市部での活発な流通動向が消費を強力に押し上げています。実際の都市部（ハノイ、ホーチミン等）における消費活発化の肌実感は加速していると感じます。

〈参考：ベトナム統計局（GSO） / VnEconomy（2026年9月4日付）〉

2.ファミリーマート：ハノイ進出を本格化、(9月19日にセレモニー実施)今年度20店体制へ向かう

南部を中心に展開してきたファミリーマートは、8月下旬の先行オープンに続き、9月19日にハノイ市の大型複合施設「ロイヤルシティ店」で進出セレモニーを開催しました。北部市場での店舗網を急拡大させており、今年度中にハノイ市内だけで約20店舗の出店を目指します。元々、ベトナムでは歴史のある同チェーンですが、過去4回、経営体制（出資者等）を変えてきました。2025年からの現体制により、これまで未開拓であった北部へ進出を本格化させる動きです。

〈参考：ファミリーマート公式IRリリース（2026年9月11日発表） / 食品新聞（2026年9月25日付）〉

3.イオンベトナム：「イオンモール タインホア」の10月18日開業を発表し地方展開を加速

イオンモールは7月のダナン店に次いで、ベトナム9号店かつタインホア省初出店となる「イオンモール タインホア」を2026年10月18日にグランドオープンすると発表しました。地方中核都市の購買力向上を見込み、ドミナント出店戦略とローカル需要の取り込みを進めています。イオングループとしては「マックスバリュ」など中規模店舗拡大にも力を入れています。

〈参考：共同通信PRワイヤー / イオンモール公式（2026年9月11日付）〉

4.WinCommerce×Bách Hóa Xanh：生鮮ミニスーパー2強による地方網拡大競争の加熱

地場流通大手のWinCommerce（マサングループ・WinMart+展開）とBách Hóa Xanh（モバイルワールド傘下・バックホアザイン）は、9月に入り地方都市および郊外住宅地での店舗増設スピードをさらに上げています。伝統的市場（モダン・トレード以前の市場）からの需要シフトを狙い、新鮮な生鮮食品と即時配送サービス（Q-Commerce）を武器にシェアを競っています。歴史的に南部に基盤のある「サイゴンコープ」（約600店）を加え、今後は生鮮に力を入れたミニスーパーが拡大するでしょう。これに伴い、ベトナムの食品の消費の75%を占めると言われる“伝統的な地域（青空）市場（トラディショナル・トレード）”が徐々に失われていくと予測できます。

〈参考：VIETJOベトナムニュース（2026年9月1日付）〉

5.サークルK・GS25：Z世代向けに店内イートインおよびオリジナル惣菜メニューを拡充

韓国系コンビニのGS25と外資大手のサークルKは9月、店舗内のイートインスペースをカフェ風にリニューアルし、トッポギやホットスナックなどのオリジナルデリカメニューを強化しました。若年層の「サードプレイス（サードスペース）」としての利用を取り込む施策を推進しています。とりわけ「GS25」の経営母体の「SonKimグループ」は、グループにおしゃれなカフェ「NOIRE（ノイレ）」を展開しており、ゆくゆくはコンビニとカフェの融合業態もあるのではないかと予想します。

〈参考：Retail Asia News（2026年9月15日付）〉

外食（外資系、カフェ、ファストフード）

【今月の代表的な動向・トピックス】

1. カッパ・クリエイト：回転寿司「かっぱ寿司」ベトナム1号店をビンズオン省にオープン

コロワイドグループのカッパ・クリエイトは2026年9月24日、ベトナム初出店となる「かっぱ寿司 Hikari店」を開業しました。現地で急速に拡大する中間層・ファミリー層をターゲットに、日本品質の鮮度とリーズナブルな価格設定で回転寿司市場の開拓に乗り出しています。日本の回転寿司は「元気寿司」(2店)、「はま寿司」(1店)に次ぐ3社目で、いずれも南部で展開しています。「スシロー」「くら寿司」は今後可能性大と感じます。
 〈参考: Foodservice News / 外食ニュース (2026年9月29日付)〉

2. 中秋節（ムオン・トゥー）商戦における大手外食・カフェブランドの限定スイーツ展開

9月中旬の中秋節をピークに、主要外食チェーンやカフェ各社はオリジナルの限定スイーツや高品質月餅（Mooncake）のセット販売を精力的に展開しました。単なる伝統行事にとどまらず、若年層のSNS投稿や企業間のギフト商戦を取り込む戦略が定着しています。特にメコンエリア原産のドリアン月餅は、クセがあるものの、とてもユニークで、かつ美味しいと毎年評判です。
 〈参考: F&B Market Report (2026年9月12日付)〉

3. フードデリバリーの定着に伴う「デリバリー専用・ゴーストキッチン」の出店増加

「ShopeeFood」や「GrabFood」などのデリバリーアプリが定着したことを受け、外食各社は客席を持たないデリバリー専用キッチン（ゴーストキッチン）の活用を拡大させています。賃料コストを抑えつつ、都市部高密度エリアでの配達カバー率を高める試みが進行しています。現在、フードデリバリーは上記2社で市場の9割を押さえているとされていますが、ベトナムローカル系の「beFood」、「Xanh SM Ngon」の2社、また日系で富裕層（欧米人・日本人）に特化した「Capichi(カピチ)」などが伸びてきています。
 〈参考: ベトナム食文化・外食市場分析レポート (2026年9月18日公表)〉

ピザ・パスタ：

1. The Pizza Company: 郊外・学園都市エリア向け「小型デイクアウト・デリバリー拠点」の拡大

都市部中心街の賃料高騰を受け、The Pizza Companyは9月、ハノイやホーチミンの郊外・大学周辺地域において客席数を絞った小型ユニットの出店をさらに進めました。低固定費での営業スタイルにより、アプリ経由の低価格ピザ需要に素早く対応する体制を整えています。
 〈参考: F&B Vietnam 9月度リテール追跡調査 (2026年9月20日付)〉

2. Pizza 4P's：自社製チーズ・サステナブル素材を活用した「中秋節プレミアムギフト」を投入

日系ピザチェーンのPizza 4P'sは9月、自家製フレッシュチーズやローカルのオーガニック食材を使用した限定スイーツ・ギフトボックスを展開しました。環境に配慮したパッケージデザインも好評を博し、ブランドファンや企業用贈答需要を獲得しています。同社（Pizza 4P's）は、ベトナム41店舗、海外7店舗を展開する「グローバルピザカンパニー」に成長しつつあり、今は同ブランドの冷食ピザ、チーズなどのメーカーとしても業容を拡大しています。
 〈参考: Vietnam Business Trend (2026年9月14日付)〉

3. Capricciosa（カプリチオーザベトナム）：ファミリー層向け「大容量シェアリングセット」

日系WDIのライセンス展開であるカプリチオーザベトナムは9月、大皿パスタとピザを組み合わせた「大人数シェアリングセット」のメニュー構成をリニューアルしました。商業施設（モール）内店舗を中心に weekend の家族客層をしっかりと囲い込んでいます。上述のPizza 4P'sが創出した「日系イタリアン」の 카테고リーに'25年サイゼリヤも進出し、にわかに活況を呈してきました。
 〈参考: Insight Asia F&B速報 (2026年9月8日付)〉

カフェ：

1.チュングエン・レジェンド(Trung Nguyen Legend)：高級ギフトセットの展開と海外旗艦店戦略

ベトナムコーヒー大手のチュングエン・レジェンドは9月、自社ブランドのドリップコーヒーとプレミアム月餅を組み合わせた贈答用セットを全国の店舗で大々的に打ち出しました。いわゆる元来の大衆カフェから今や高級路線「レジェンド」に集中、展開エリアもベトナムにとどまらずグローバル（中国、アメリカ）に向かっています。

〈参考：Vietnam.vn（2026年9月10日付）〉

2.Katinat / Phúc Long：季節限定フルーツティー・低糖質ドリンクの投入でZ世代を獲得

若者に圧倒的人気を誇るローカルカフェチェーンの「Katinat」や「Phúc Long」は9月、秋の新作として季節のフルーツ（ポメロやドラゴンフルーツなど）を使用したティードリンクを相次いで投入しました。健康志向の高まりに応えた「甘さ控えめ・低糖質」オプションに加え、この数年、コーヒーをコーヒーだけで飲まないアレンジカフェ「塩コーヒー」「チーズコーヒー」「アボカドコーヒー」などが若い人に流行しています。

〈参考：Vietnam Youth Market Insight（2026年9月15日付）〉

3.ダナン・観光エリアにおける「和風抹茶・Zen（禅）コンセプトカフェ」の浸透

ダナンやフエなどの沿岸・観光エリアにおいて、日本の抹茶や「禅」の静寂さをイメージした洗練されたデザインカフェのオープンが続いています。抹茶＋フルーツ、抹茶＋チーズクリームなどは映えを求めるだけでなく、「味」「飲み方」として定着しています。

〈参考：Danang.style（2026年9月5日付）〉

ファストフード：

1.KFCベトナム：徹底したローカル戦略＝「日常での食事」を目指した展開を図り、米文化との融合（セットメニュー）地方都市への展開強化を狙っている。そのような中、全国一斉の新学期（9月5日）に合わせた「学生限定超お得コンボ」を全国投入

9月5日の全国一斉新学期開始に合わせ、KFCベトナムは中高生・大学生をターゲットにした「バック・トゥ・スクール」プロモーションを実施しました。学割価格のコンボ（59,000VND～）とモバイルアプリクーポンを組み合わせ、放課後の学生需要を強力に集客しました。

〈参考：VnExpress（2026年9月6日付）〉

2.マクドナルド・ベトナム：徹底した「プレミアム感」「品質・安全性」を打ち出す戦略を実践している。その中で今回、ローカライズメニュー「フォー味バーガー」のSNS拡散と注文増加

8月に投入されたベトナム限定「フォー味バーガー（Pho Burger）」が、9月に入ってもTikTokやFacebook等のSNS上で話題を集め続けています。

〈参考：地球の歩き方 ベトナム特派員ブログ（2026年9月12日付）〉

3.ビードパパ（Beard Papa's）：歩行者天国・観光地立地での「ワンハンド・テイクアウト」強化

シュークリーム専門店のビードパパは、ホーチミン市のグエンフエ歩行者天国などの人流が多い立地で、歩きながら食べられるワンハンド・テイクアウト商品の販売を強化しています。「ビードパパ」（永谷園グループ傘下）の戦略は、「ニッチを極めて市場を創る」ことに軸足があり、今回の「ワンハンド・テイクアウト」も日本の70年代の歩行者天国とカップヌードル、マクドナルドを思い起こさせるオケージョンマーケティングとも言えます。

〈参考：働くママinベトナム（2026年9月18日付）〉

消費生活のトレンドまとめ（2026年9月）

旧暦7月（鬼月）明けによる大型高額消費（車・不動産・家電）の回復

8月末まで続いた旧暦7月（コーホン＝さまよう魂の月）の「高額な買い物を控える」慣習が9月上旬に開けたことで、一時停滞していた自動車、不動産契約、大型家電の消費が一気に回復を見せています。いわゆる「リバウンド消費」にはいります。自動車・バイク・家電をはじめ、不動産、金など取引が活発になるでしょう。
 〈参考：Access Online（ベトナム経済情報）（2026年9月4日付）〉

特集「バインミー」＝ベトナムの国民食について

ベトナムのソウルフード「バインミー」完全ガイド

1. 歴史と基本レシピ

歴史：19世紀後半のフランス統治時代にバゲットが伝来。1950年代にサイゴン（現ホーチミン）で、米粉を配合して軽くサクサクにしたパンに、レバーパテやなます、ハムを挟むスタイルが確立されました。

基本レシピ：外はサクサク、中はふんわりのバゲットに、レバーパテとマヨネーズを塗り、ベトナムハムやチャーシュー、大根・人参のなます、きゅうり、パクチーを挟んで仕上げます。



ベトナムのソウルフード「バインミー」

2. ホーチミンのローカル有名店

「バインミー・フィンホア」：常に行列の超有名店。何層ものハムやパテが詰まったボリューム満点の一本。

「バインミー・バイホー」：創業90年以上の老舗屋台。濃厚でなめらかな自家製パテが絶品。

「バインミー37」：炭火で香ばしく焼いた特製肉団子（ミンチボール）が特徴の人気屋台。

「バインミー・ホアマー」：サイゴン最古とも言われる元祖「鉄板バインミー」の店。



街のあちこちに屋台がある

3. マーケットデータと最近のトレンド

市場規模：年間で数億食が消費される巨大な日常食市場を形成しています。

最近のトレンド（2025～2026年）：

プレミアム化：オーガニック食材や高級肉を使用した高価格帯のスタイリッシュな店舗が増加。

プラントベースの台頭：健康志向の高まりを受け、大豆ミートなどを用いたヴィーガン・バインミー専門店が急速に拡大。

海外展開の加速：日本や韓国などへの進出が進み、現地ナイズされた味覚が逆輸入される動きも。

〈参考ニュース〉

DELISH KITCHEN／Wikipedia／VIET VOICE（ホーチミン有名店ガイド） / サイゴン日日酔

2026年9月のベトナム政治・経済・社会トピックス

1.【政治・行政・外交・軍事】

- **トップ外交と国際会議への積極参加：** トラム書記長が訪仏してマクロン大統領と会談したほか、国連総会に出席し4大方針を演説。また、ミャンマーやタイの首脳が相次いで訪越するなど、多国間・二国間外交が活発化しました。
- **国家AI戦略とデータ・労働関連法規の整備：** 「2030年にAI経済規模をGDP比6%へ」とする国家AI戦略が発表されたほか、外国人の労働管理強化や、データ収集・個人情報保護に関する厳格な新政令が相次いで施行・公布されました。
- **防衛交流の深化：** イタリア海軍の最新鋭哨戒艦がホーチミンに寄港したほか、ハノイでベトナム・北朝鮮の国防次官会談が開催されるなど、安全保障面での動きも見られました。

2026年9月のベトナム政治・経済・社会トピックス

2.【経済・社会】

- 株式市場のFTSE新興国市場への昇格：長年の悲願であったFTSEによる新興国市場への昇格が9月19日に発表（適用）され、海外からの資本流入に対する期待が一層高まりました。
- ADBによる成長率上方修正と民間企業の台頭：アジア開発銀行（ADB）が2026年のベトナムのGDP成長率予測を+7.8%に上方修正。また、ビンググループが納税額首位に立つなど民間企業の存在感が一段と増えています。
- インフレ・社会保障：全国平均月収データが公表され地域格差が浮き彫りになった一方、学校での基礎的学力に関するOECD調査結果や、偽造月餅の摘発など消費生活を守るための取締りも強化されました。

3.【建設・不動産開発】

- 主要都市における大型開発とバクニン市の誕生：北部バクニン省の市への昇格（バクニン市誕生）記念式典が盛大に開催され、ビンググループによる北部での大規模都市開発（投資総額41兆ドン規模）が着手されるなど、不動産・インフラ開発が活発化しました。
- レディビルト工場（レンタル工場）の需要急増：製造業FDIにおける工場の新規建設よりも、即座に稼働できる「レンタル・既存工場（レディビルト工場）」の利用が全体の約7割を占めるなど、投資効率を重視した開発・進出形態が主流となっています。
- 住宅法改正と価格動向：外国人の住宅所有をマンションに限定する方向での住宅法改正案の審議が進み、ホーチミン市等ではエリア拡張や市場の再編に伴う不動産価格の変動が見られました。

4.【消費生活・ヒット商品・スポーツ・芸能（芸術）】

- ファミリーマートのハノイ本格進出：日系コンビニ大手ファミリーマートがハノイへ本格進出を果たし、今年度中に約20店舗を展開する計画を打ち出し、都市部の消費者の注目を集めました。
- 建国記念日（5連休）の観光ラッシュ：9月初頭の建国記念日の5連休では全国で約650万人の観光客が移動し、国内旅行や消費行動が大きく盛り上がりしました。
- 文化・芸術交流の活発化：カントー市等での「日越文化・経済交流プログラム」や各地での日本語スピーチコンテストなど、両国の文化・人的つながりを深めるイベントが多数開催されました。

5.【消費・生活トレンド(9月)】

● 2025年全国世帯生活水準調査結果の公表：平均月収は600.5万VNDへ上昇

ベトナム統計局が9月5日に発表した調査結果によると、全土の1人当たり平均月収は前年比10.9%増の600万5,000VND（約3万6,400円）となり、国民の生活水準の向上が確認されました。都市部と農村部の所得格差は縮小傾向にあるものの、最高値のハノイ市（約5.1万円）と最下位の地方都市では3.2倍以上の開きが依然として存在します。ちなみに標準の大卒（一般事務・営業）の初任給800万VND（約4.8万円）以上とされており、賃金・手当は確実に向上してきています。

〈参考：VIETJOベトナムニュース（2026年9月5日付）〉

参考・関連ニュース参考

- VIETJOベトナムニュース「2026年09月の主要ベトナムニュース・月間主要記事一覧」
- note（ファンシー・ツカン氏）「2026年9月27日 ベトナム社会主義共和国 主要ニュース・情勢総合」
- [VIETJOニュース「ホーチミンの工業団地内投資、1～9月期で通年計画を31.2%上回る」（2026年9月28日）](<https://www.viet-jo.com/news/economy/260925140713.html>)
- [note（河本直己氏）「3分でわかる ベトナム建設ニュース - 2026-09」](<https://note.com/nkawam/m/ma83f297fd0d1/archive/2026-09>)
- [亜州Asean統計・ニュース「ベトナム：ビングがEV部門に不動産事業を注入、収益改善狙い」（2026年9月20日）](<https://ashu-aseanstatistics.com/news/300097-96029815530>)

当月話題のニュース

世界コンテナ港トップランキング100にベトナム3港がランクイン

英国の海運誌ロイズリストが発表した2026年版「世界コンテナ港トップ100」で、ベトナムからホーチミン港（23位）、ハイフォン港（26位）、カイメップ港（31位）の3港がランクインしました。サプライチェーンの多様化を背景に取扱量を伸ばしており、特にハイフォン港はバース増設や設備投資により前年比16%超増の約820万TEUとなり、順位を3ランク上げました。ただハイフォン港は、沖合のラックフェン地区に過度に荷物が集中すること、他の埠頭には大型船が接岸できない弱点・課題もあります。

〈参考：VIETJO2026/09/10 03:41 ICT配信〉

ビンG、会長は東南アジアの富豪維持 時価総額も初の台突破

米経済誌フォーブスが4日に更新した世界長者番付によると、ビングループ（VIC）のファム・ニャット・ブオン会長が資産額392億USD（約6兆1000億円）で東南アジア首位の富豪の座を維持しました。同社株の急騰により、株価は最高値の26万VND（約1550円）を記録し、時価総額はベトナム株式市場で初めて2000兆VND（約11兆9000億円）の台を突破しました。2013年にベトナム初のビリオネアとなって以来、13年間で資産を25倍以上に拡大させています。ブオン会長はハノイの貧しい家庭に育ち、旧ソ連への国費留学組、ウクライナへ移住、ベトナム料理店をスタートに、一大インスタントラーメン会社を設立⇒ネスレ社へ売却し巨万の富の基礎を作りました。2000年にベトナムへ帰国、ニャチャンリゾート開発、住宅不動産から、グローバルEV事業「VinFast」（ビンファスト）の米ナスダック上場を果たしました。いわゆる立志伝中の方です。

〈参考：VIETJO2026/09/05 08:02 ICT配信〉

ベトナム、25年の新車EV販売比率40% 東南アジア首位に

国際エネルギー機関（IEA）の報告によると、ベトナムの2025年の新車販売に占めるEV比率が約40%に達し、東南アジア首位となりました。普及を牽引するビンファストは同年の納車台数が前年比2倍の17万5099台を記録。充電スタンド開発大手V-GREENによる15万口超の充電ポート設置や、政府の登録料免除措置なども後押ししました。IEAは2035年までに同比率が80%超へ達すると予測しています。しかしながら一方で、政府の全面支援を受けながらも、中国との価格競争激化、売電インフラ（電力自体の供給）などの課題も大きく、どこまで拡大できるか安心はできない状況です。

〈参考：VIETJO2026/09/22 15:37 ICT配信〉

ラム書記長、国連総会で演説 4つの大方針を提示

米国ニューヨークの国連本部で現地時間22日に開催された第81回国連総会ハイレベル会合で、ベトナムのトー・ラム共産党書記長兼国家主席が一般討論演説を行いました。同氏は持続可能な開発や平和構築、気候変動対策など地球規模の課題解決に向けた「4つの大方針」を提示し、ベトナムとして国際社会の平和と繁栄に積極的に貢献していく姿勢を強調しました。ベトナムは「米」「中」の双方に配慮するいわゆる「竹外交」をポリシーにしていますが、それが、「南シナ海緊迫」などの地政学リスクへの具体的対応が見えてこない課題とも言われています。

〈参考：VIETJO2026/09/23 17:54 ICT配信〉

アジア開発銀行、ベトナムの26年GDP成長率予測+7.8%に上方修正

アジア開発銀行（ADB）は23日発表の見通しで、ベトナムの2026年GDP成長率予測を+7.8%（従来+7.2%）に、2027年予測を+7.6%に上方修正しました。上半期の成長率が+8.2%と想定を上回ったことを反映したもので、製造業の拡大や内需、FDIの堅調さが牽引しています。インフレ率予測は2026年が+4.3%に引き上げられた一方、具体的には①「中小企業の資金調達難」、②「公共投資の執行の遅れ」などが懸念材料です。

〈参考：VIETJO2026/09/24 04:35 ICT配信〉

比ジョリビー、ハイランズ・コーヒー経営権譲渡 企業価値8億USD

フィリピンの外食大手ジョリビー・フーズ（JFC）は、ベトナムのカフェチェーン「ハイランズ・コーヒー」の運営会社の株式11%を共同出資者のベトナム・インターナショナル（VTI）に約2兆3000億VNDで売却することで合意しました。これによりVTIの出資比率が51%となり経営権を獲得します。ハイランズ・コーヒーの企業価値は約8億USDと評価されており、2027年1～3月期までのベトナムでの新規株式公開（IPO）に向けた準備が進められています。同社はジョリビーの傘下で56店舗⇒1,000店となり、強固なサプライチェーン（南部バリアンタオ省の巨大焙煎基地）を確立できました。今回の新しい経営体制による27年の単独IPOが計画されています。今後は「チュングエン」等の民族系伝統コーヒー企業同士の競争が一層多様化、激化するでしょう。

〈参考：VIETJO2026/09/25 03:43 ICT配信〉

ベトナム物流事情

1.【行政動向・法律法規制】

- 外資企業の事業許可に関する新政令（政令342号）**：物流、卸・小売、ECマース（EC）など外資企業の9つの活動における事業許可細則を定めた新政令が9月に公布（10月18日施行）され、従来の規定（政令09/2018）からの移行が進められています。
- データ収集および機微情報管理の厳格化**：データ分野の行政違反に対する罰則を定めた政令363号が9月19日に公布されました。顧客情報やサプライチェーンデータを扱う物流・EC企業において、適切な同意取得や保護措置が求められており、違反時には高額な罰金が科される枠組みが強化されています。
- 外国貿易管理法の改正（政令292号）**：9月5日に施行された新規定により、外国貿易や関連する労働分野のコンプライアンス管理が一段と強化されています。

2.【港湾開発・交通インフラ】

- カンザー国際トランシップ港プロジェクトの加速**：ホーチミン市人民委員会は9月中旬、総投資額約50億米ドル規模を誇る「カンザー国際トランシップ港」の投資家コンソーシアムに対し、同年10月の着工に向けた強力な督促を行いました。周辺の接続道路（3km）の着工や水深16～18mを確保するための航路浚渫など、実務的なインフラ整備が急ピッチで進められています。
- ホーチミン市メトロ2号線の延伸と都市開発（TOD）**：ホーチミン市とタイニン省を結ぶ交通網の強化や、国道22号線を軸としたメトロ整備・周辺のTOD（公共交通指向型開発）を一体的に進めるための具体的な調査・計画策定が9月に大きく前進しました。

3.【企業進出・コールドチェーン・パレット化】

- コールドチェーン市場の拡大と日系企業の動き**：ベトナム国内の所得向上や生鮮食品・医薬品の需要急増に伴い、コールドチェーン市場が急速に拡大しています。日系物流企業による冷蔵・冷凍倉庫網の買収や投資が加速しており、現地企業とのパートナーシップを通じた高度な温度管理・小口配送技術の展開が注目されています。
- パレット（プラスチック等）の規格化と効率化**：サプライチェーンの近代化に伴い、荷役作業の自動化や保管効率の向上を目的としたパレット標準化・プラスチック化のニーズが物流センターや小売業の間で高まっています。

4.【環境問題・サステナビリティ】

- 物流・サプライチェーンにおける環境規制の意識向上**：ベトナム政府が掲げる「2050年までのネットゼロ（温室効果ガス排出実質ゼロ）」に向け、製造・物流拠点における省エネ設備の導入や、環境負荷の低いグリーンロジスティクスへの移行が企業選定の重要な要素になりつつあります。

参考・関連ニュース参考

- ・ [LuatVietnam / ベトナムニュースをまとめ読み（2026年9月27日配信）「外資の事業許可は新政令へ、データ収集に罰金等」](https://note.com/vn_news_link/n/nc0ec58123d85)
- ・ [note 河本直己氏（2026年9月21日公開）「約50億USDのカンザー港、市が投資家に渡した宿題は4つでした」](<https://note.com/nkawam/n/ncb870ef7448c>)
- ・ Access Online（2026年9月28日公開）「ホーチミン市メトロ2号線をタイニン省境まで延伸 | 2026年末着工へ」
- ・ グローバルマーケティングラボ（2026年9月公開）「ベトナム・コールドチェーン市場の急成長と日系企業の好機」